

研究所だより

第445号
2022年 7月 5日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3015

GIGAスクール構想 一人一台端末時代の学校づくり

第12回 端末活用の便利さを体感することが重要

玉置 崇 教授 (岐阜聖徳学園大学教育学部)

☞ これは便利！だという感覚を持っている

ある道具が頻繁に活用されるのは、その道具を使うことが便利であると知っているからです。教職員が情報端末を「仕事を便利にする道具」ととらえていれば、端末活用は自然に進みます。GIGAスクール構想がより具現化されている学校では、多くの教職員がこうした意識を持っていると感じます。

ある中学校で見た美術の授業を紹介します。数点の有名な絵画を鑑賞する場面でした。

まず教師の端末を使い、プロジェクターでそれらの作品を提示しました。

「これらの作品を見て感じることを、みんなで話し合いたいと思います。それでは、共有ドライブにこのデータを置きますから、自分の端末で見てください」と指示がありました。子どもは、手元の端末で作品が細部までしっかり見ることができ、出される意見も多彩でした。

「共有ドライブに～」といった指示だけで活動が進み、戸惑っている子どもが皆無だったことから、情報端末を日常的に活用していることが伺えました。

仮に、この場面で教室の端末とネットワークがなかったらとしたら、教科書を開かせたり、資料をカラー印刷して配布したりしたと思います。

私と一緒に授業を参観していた校長から、「あの先生は情報端末の便利さを知ったので、授業で頻繁に使うようになりました」とお聞きし、教師の変化を知ることができました。



☞ ネットワークを活用しての業務体験が授業へ好影響を生む

「あの先生は、どのように便利さを知ったのでしょうか」と、校長に問いかけたところ、「教職員間でデータのやり取りをする際に、ネットワークを活用することが当たり前になってきたからだだと思います」との返答でした。

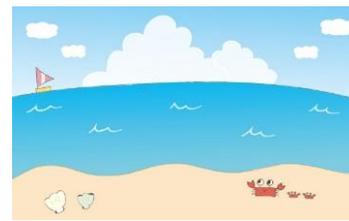
例えば、行事終了時に教職員から気づいたことや改善すべき点を集約するのに、以前は紙を活用していました。ところが教職員にも一人一台の端末が配布され、ネットワークが完備してからは、教務主任からアンケートフォームが各教職員に送られ、直接、そこに書き込み送信することで、一切、紙を使わず済むようになりました。こうしたことを日々経験しているうちに、授業でも端末を活用するように変化してきたとのことでした。

端末活用は便利だと体感すると、この仕事にも端末が活用できるのではないかと考えるようになるのです。その一例が、ここで紹介した美術の授業での端末活用です。教職員間でのデータのやり取りが教師と子どもとのデータのやり取りになっただけで、本質的には同じことなのです。



“あした浜辺を さまよえば 昔のことぞ しのばるる
風の音よ 雲のさまよ 寄する波も 貝の色も”

『浜辺の歌』 1916年(大正5年) 唱歌・歌曲



～ 最も早い梅雨明け ～

6月28日(火)、高松地方気象台は「四国地方は28日ごろに梅雨明けしたとみられる」と発表しました。異例の短さと降水量の少ない梅雨となっており、平年と比べ、貯水率が低下しているダムも多く、水不足が深刻化する懸念もあります。

7月2日は「半夏生」。夏至(6/21)の頃から11日目を指すようです。「半夏(はんげ)というサトイモ科の薬草が生える頃ですよ。」ということを知らせる雑節のひとつです。半夏(が)生(える)から「半夏生」と呼ばれている訳です。昔から農作業の目安として「田植えは夏至の後、半夏生までに終わらせる」という言い伝えがあり、これは「半夏半作」とも呼ばれ、半夏生よりも後になると秋の収穫量が減ってしまうとコメ農家の間では言われていたそうです。

梅雨が明け、この先蒸し暑く、気温の下がりにくい状態が続きそうです。暑い夏を快適に過ごすためにも、万全の熱中症対策や食品の管理に注意が必要です。また、新型コロナウイルス感染症に対する基本的な感染予防対策(マスク、手洗い、うがい、3密回避、体調の管理)の徹底も心がけましょう。



☆第1回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)開催☆

5月31日(火)に2022年度第1回教育支援コーディネーター連絡協議会(あすなろネットワーク)を開催しました。

第1回連絡協議会は、新年度最初の会で、新しい先生方が多いこともあり、はじめに田村所長よりご挨拶をいただき、その後自己紹介を行いました。続いて谷岡研究員から「あすなろネットワークの歴史や目的、組織、昨年度の取組、県・市の不登校・欠席の現状、欠席実態調査、あすなろネットワーク担当者としての役割等」について説明、協議を行いました。そして、年間計画については4回の開催を確認し、意見交換を行いました。

第2回連絡協議会は、8月22日(月)15:30から教育センターで行います。



≪ 授業検討会でも情報端末を活用する ≫

情報端末活用への抵抗感が下がると、様々な場面での活用が始まるようです。

次の写真は、授業検討会での様子です。ネットワーク上におかれた電子模造紙に、授業を見て感じたことを電子付箋に書き込んで張り付けているところです。

以前のこの学校は、紙の模造紙に、各自の気づきを紙の付箋紙に書き込み、それらを並べることから、授業検討会を始めていました。

しかし、情報端末を用いると、電子付箋紙に書かれた事柄を移動することが簡単になります。その機能を活用した気づきをカテゴリー分けすることで、話し合いはよりシャープになったとのこと。

授業検討会で体験したことを、そのまま授業でも活用し、子どもたちに自分の考えを電子付箋紙に書かせて話し合いをさせる教師が増えてきたそうです。

やはり、教師自身が体験して、そのよさを実感することがGIGAスクール構想推進への1番の近道ではないでしょうか。



◇ 図書紹介 ◇

～ぜひご利用ください～

① 中学校 学級経営ハンドブック 編著：鹿嶋 真弓 吉本 恭子 〈学級環境づくり・仲間づくり・キャリアづくり〉

本書には、学級担任を対象に、集団のルールや規律が守られ、協力し合える人間関係があり、お互いが成長し合うことのできる学級を育てるためには、どのように集団を形成していけばいいのかという道筋を、「環境・約束」「信頼・仲間」「キャリア」の3つの柱に沿って示しています。「何をやるか」だけでなく、「キーワード」や「押さえておきたいポイント」を具体的に示し、すぐに実践できる内容となっています。

② 通常の学級担任がつくる個別の指導計画 編著：廣瀬 由美子 佐藤 克敏

学校には従来から培われてきた多くの教育的財産があります。その財産は、特別支援教育になっても、いいえ特別支援教育だからこそ活かせることが沢山あります。特別支援教育を進めていく上で重要な課題は、通常の学級の先生方にも、集団から個をみる視点ばかりでなく、子ども一人を丸ごとみて理解し、個に焦点を当てた指導や視点、配慮ができるようになることだと思います。



お知らせ < 市民図書館より新しいDVDの紹介 >

市民図書館では、今年度も平和学習用として「戦争・平和」にちなんだ下記のDVDを新規購入し、貸し出しをしています。皆様のご利用をお待ちしています。

〔問い合わせ：市民図書館 82-4151〕

① 「日本のいちばん長い日」 (再生時間 136分)

1945年太平洋戦争末期、三国同盟を結んでいたドイツのヒトラー総統は戦局悪化により自害し連合軍に降伏、日本も7月にポツダム宣言が出されたがそれを受理するまでに、国民に戦争終結を願う天皇と、戦争を続けたい軍人たちとの知られざる男の戦いがそこにはあった。

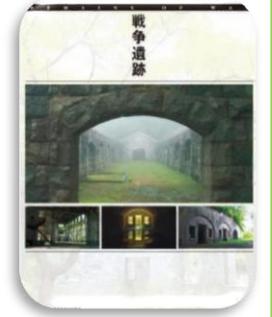
戦争降伏が国民に知られるまでになにがあったのか、歴史の舞台裏を描いた作品。



② 「戦争遺跡」 (再生時間 70分)

日本における「廃墟」の原点でもある「戦争遺跡」を取り上げたDVD！日本の海岸沿いや島の多くに残されている、要塞や砲台跡を中心に見せる。

従来の廃墟ファンだけでなく、昭和初期世代の高い年齢層にも十分にアピールする作品、悲惨な光景を見せるのではなく、取り残された遺構に刻まれた爪痕と時代の残影を、美しい新緑とのコントラストの中で、真摯な視点からドキュメントする。函館要塞、由良要塞（友が島）、舞鶴要塞、門司要塞、下関要塞、佐世保要塞、そして毒ガスを製造していた大久野島の建造物、川棚魚雷発射試験場の遺構など。



③ 「硫黄島からの手紙」 (再生時間 140分)

戦況の悪化が著しい1944年6月、アメリカ留学の経験を持つ陸軍中將が硫黄島に降り立つ。彼は規律や作戦を次々に近代化していく。米軍の猛威が迫る中、彼のもとで戦う兵士たちは、各々の思いを祖国で待つ人への手紙に託すのだった。



④ 「沖縄戦 全記録」 (再生時間 59分)

これまで明らかになってこなかった沖縄戦の全体像を、新たに発掘した軍関係の資料や戦死者の記録などに基づき専門家と分析。どこでどれだけ犠牲が出たのか、沖縄戦の記録を詳細にデータ化し、全貌を明らかにした。そこから見えてきたのは日米両軍の「軍事的決断」がもたらした、あまりにも重い結果である。米軍が撮影した膨大な未公開フィルムと1000本にのぼる住民たちの生々しい証言テープ、「映像と音声」で沖縄戦を再構築しながら、日米の兵士たちを狂気へと追い込み、南の島を悲劇の戦場に変えた“軍民一体”の地上戦の実態に迫る。

